

鴨川シーワールド視察報告書

2019年11月6日(水)

- 視察日時：2019年11月4日(月)
- 視察先：鴨川シーワールド
- 参加議員：住本一礼、外海開三、山本憲和
- 目的：神戸市立須磨海浜水族園・海浜公園再整備事業に関して、再整備事業者が決定したことに伴い、千葉県で運営している鴨川シーワールドを現場調査することで、当該エリア活性化の参考とするため。

■内容

鴨川シーワールドでは、以下の4つの基本方針で運営している。

①教育活動

教育プログラム(学校団体用特別プログラム、サマースクール等)を通じて、楽しく学ぶ場を提供。

②野生動物の保護活動

アカウミガメ卵の保護、水生昆虫等の保全活動を通じて「種保存活動」を推進し、自然と野生動物との共存に貢献。

③飼育下繁殖の推進と研究

生息域外保全に資する場として、飼育下繁殖を推進し、それに関連する調査研究を推進。種保存活動を通じ科学的知見を集積し、生息域内保全に貢献。

④地域との連携

地元漁業者の協力により保護個体の放流や調査研究活動に取り組んでおり、地域の文化活動や各種イベントにも協力。



鴨川シーワールドのビジョンとして日常生活では会うことのない、海の生き物を通じて生命のありのままと向き合い、心と体でふれあう体験を提供していくことである。

2018 年度の水族館集客ランキング(日本)は、

第 1 位：沖縄美ら海水族館(来館者数：378 万人)

第 2 位：海遊館大阪(来館者数：263 万人)

第 3 位：名古屋港水族館(来観客数：222 万人)

第 4 位：サンシャイン水族館東京(来館者数：197 万人)

第 5 位：マクセルアクアパーク品川東京(来館者数：174 万人)

須磨海浜水族園は、118 万人の来館者数で 10 番目である。

鴨川シーワールドは 1970 年の開業以来、本年度で 49 年目を迎えるが、これまで社会情勢に左右されない入館者数で推移している。



世界の水族館に目を向ければ、集客ランキング第1位は長隆海洋王国(中国、来館者数：1,083万人)、第2位は香港オーシャンパーク(来館者数：580万人、香港)、第3位はシーワールドオーランド(来館者数：459万人、アメリカ)となっており、シーワールドオーランドにはシャチが飼育されているとの説明であった。

シャチの個体数は世界中に61頭でアメリカには21頭、鴨川シーワールドでは5頭のシャチ(メス)がいる。

鴨川シーワールドには、オスがいないため人口受精の計画をしており、40回分の精液を確保している。そして、シャチへの人口受精をしている専門獣医(アメリカ)が世界で1人しかいない状況のため、日本での受精計画時期は未定とのことである。

そして、シャチは捕鯨の対象ではなく寿命として、オス50歳から60歳、メス80歳から90歳と言われているが、環境によって変化するため一概には言えないとのことであるようだ。シャチの餌代について言えば、年間2,000万~2,500万前後であり、餌の種類はにしん、サバ、ししゃも等で構成されており、冷凍の餌が使用されている。鴨川シーワールドでは、シャチを飼育して49年を迎えており、中国やスペインの水族館とシャチに関しての業務提携を行っている。加えて、開業以来赤字にはなっていないのが特徴である。

動物とのふれあい体験においては、イルカやベルーガ、アシカ等との記念撮影やパフォーマンスが各ブースで見ることができ、子育て世帯を含めてあらゆる世代が楽しめる内容となっている。



■ 質疑

Q. 地域との関わりはどう考えているのか。

A. 本企業は、社会貢献・地域貢献を理念にあげている。可能な限り地域密着で地域貢献していきたいと考えている。こちらでも、様々なメニューを実施しているが、今後どのような地域活動を行っていくことが良いのか地域の声を聞いて行いたいと考えている。

Q. 現の須磨水族園の従業員の継続雇用を考えているのか。

A. 従業員は可能な限り継続して雇用して欲しいと考えている。ただし、現時点ではこちらも、決定業者ではないし従業員も現水族園に所属しているので、正式には相手方会社を通して話を進めないといけないため交渉はできない状況である。1日でも早くその点は協議したい。

■ 考察

須磨海浜水族園についての民営化については、神戸の活性化の視点から賛成する。しかし、地元住民に対しての丁寧な説明や料金体系については、より一層の努力が必要であると考え。神戸市民の子どもたちが気軽に親しめる水族園にしていくことが大切であるとともに、現場で働く従業員たちのことも配慮しつつ、これまで水族園が培ってきた展示物等についても継承していくことが必要であると考え。